令和6年度 学校評価表

大崎上島町立大崎小学校

(中間 ・最終)

学校経営目標	安心があふれ、自信の育つ学校づくり	経営理念	【ミッション】大崎上島を愛し、大崎上島の将来を担う たくましく生きぬく子供の育成 【ビジョン・パリュー】・自ら考え、判断し、行動できる「自律」した力を持った人材を育成する学校
学校教育目標	主体的に学び続け、共に育つ学校づくり	ミッション・ビジョン・バリュー	・失敗こそ学びであるとの認識を持ち、心理的安全性を確保し、自己肯定感を育成する。 ・自らを俯瞰的・客観的に見ることのできるメタ認知能力を育成する。

評価計画									自己評価	学校関係者評価	改善方策
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目•指標	目標値	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析	コメント	(以告ガ泉 今後に向けて
確かな学力	主体的な学びを実現する。	意欲的に問題に取り組む。 ①豊かな表現力 ②主体性・粘り強さ	◎主体的な学びの推進 ・数学的な表現方法(算数用語・図・数・式・表・グラフ)を用いた表現活動の推進 【①豊かな表現力】 ・児童間で疑問や、意見が生まれ、深まるような発問の精選 【②主体性・粘り強さ】	○算数科授業についてのアンケート(児童評価) ・自分の考えを(算数用語・図・数・式・表・グラフ)使って表現している (児童評価) ・算数が分かる ・授業が楽しい ・授業中に自分の考えを友だちに 説明したり質問したりしている	80%	57 87	71%	В		・説明の型を教え、論理的な説明に慣れさせていくのはどうか。 ・孝手したときは、何か考えはあるけれど、いざ発表となると言葉を整理できないのでは。算数科に限らず、読み語りの感想を伝える時もそう感じる。 ・分かる算数を目指して、友達同士や時間のあるペテランの先生方の見回りで担任のフォローをしてほしい。以前ニュースで見たが、ボランティアのサポート先生はいないのだろうか。 ・主体性をもって前向きに学習する意欲を育むため、日常生活での応用	・学習規律として「聞く」「話す」指導を重点的に行い、うなずきやあいづちなどの反応をしながら聞くことで話し手が安心して意見を言うことができる風土をつくる。また、型を提示することで論理的な説明に慣れることができるようにする。 ・一時間の中でいかに子供たちが理解できるか考えて教材を仕組んでいくとともに、家庭学習の量の見直しや直しをやり切らせることで基礎学力の定着を図る。・学級内の学力差を埋めるために、適宜協働学習の場面を設定することで、集団として学力をつけることができるようにする。
		基礎学力を確実に定着させる。	・授業で学んだことを、大崎小タイムや自主学習で繰り返し取り組み、確実に	○算数科の単元末テストの「知識・技能」の学校平均 ○算数科の単元末テストの	80%	81	101%	A	・各学年の領域の中において「図形」と「測定」の得点率が低いことから、児童の中で正しい量感が身についていないということが考えられる。算数的活動ありきではなく、実生活と結び付けて必要に応じて材料等も変更するなど、授業展開の創意工夫が求められる。	例などにつなげる工夫も必要と考える。 ・小学校段階では、特に実生活に結び付けながら学習させることが大切だと思う。これからも先生方の創意工夫で児童の生きた知恵を身に付けさせてほしい。	・子供たちの思考を支えることばの力を育成するため に、読書活動を増やす。読書に親しむだけではなく、それを読んでどう考えたか、実生活に生かせるような知
		②主体性・粘り強さ			80%	64	80%	В	文科書の適応問題はできても、逆説的な問われ方に対応 きていないため、普段から図をしっかりかかせることや定 するまでいろいろな出題パターンの練習問題に取り組ま ることが必要である。	・数理的な処理の良さに気付かせる工夫や学びを生活や学習に 生かす工夫をされてはどうか。	や学習に 識を得られる本の推進をする。
豊かな心	あいさつあふれ る学校づくりを 推進する。	誰にでも進んであいさつがで きる。 ②主体性・粘り強さ	◎挨拶の定着・運営委員によるあいさつ運動を実施する。・児童が評価を行う場を設定し、あいさつに対する意識を高めるとともに、自分からあいさつのできる児童の割合を上げる。	〇自分からあいさつのできる 児童の割合 (児童・教師評価)	80%	児童 95 教師 66	119% 83%	Α	・中間より児童評価は5ポイント上がり、教師評価は2ポイント下がった。児童は、多くの児童が「大きな声・目を見て・笑顔で」などと理想的な挨拶ができていると評価している。しかし、学校での様子は、挨拶をしても返答がない、声が小さいなどのため、教師評価が下がったと考えられる。教師が見本となる挨拶をすることは当然であるが、できている児童を評価しながら、できていない児童には、もっと「どうしたら良い挨拶になるか」を伝えていく。	・何年にも亘る課題である。どうしたら良いか科学的に分析する必要があるかも・・・。 ・あいさつの評価基準を児童と教師で共有した上で、評価してはどいうか。 ・通学時の様子として、児童からのあいさつより、地域の方からの方が多いとは 感じるが、あいさつをするとそれは返ってくる。笑顔とは言えないが。地域の大 人が笑顔であいさつをすることが大切で、「さあ、あいさつは?」的な言い方では、形式に過ぎないと思う。 ・あいさつは、前回よりよくなった。地域の方へあいさつをしている姿をみる。あいさつをすると、自分も相手も気分がよくなることを伝えていきたい。 ・シンブルに人とのつながりは、あいさつから始まり、最も大事なことであること を理解させる。	・教職員も笑顔、元気な声、目を見てを意識して児童に 向き合うようにしていく。 ・地域の方からの評価を児童にもっと児童に伝えてい く。これまで行ってきたあいさつ名人の評価は、学級単 位や登校班単位で評価を行い、全員であいさつを意識 できる取り組みをしていく。
健やかな体	健康な体づくり を推進する。	自分の体力の向上のために 進んで運動する。 ②主体性・粘り強さ	◎体力の向上・体育科授業において各自目標をもたせ、運動に取り組ませる。	〇目標をもって運動に取り組 めた児童の割合 (児童・教師評価)	85%	児童 93 教師 67	109% 79%	В	・児童は自分たちが目標をもって取り組んでいると考えているが、実際のアンケート記入から目標の捉え方にずれがある児童も多い。そのことが児童評価と教師評価の差につながっている考えられる。目標のたて方について児童と確認を行う必要があると考える。外遊びについては93%の達成率となった。各学年学級遊びを取り入れたり、児童会で縦割り班遊びを行ったりしていることが外遊びのきっかけになっているので、各取り組みを継続していく。	・現代では外遊びをする機会を学校であえて作らないといけないということを捉えて取り組んでいることに敬意を表する。 ・あいさつと同様に、評価基準を児童と教師で共有した上で評価してはどうか。 ・児童は、自分に甘く評価なりがちだと思う。逆に、自分をダメだと思う傾向は良いことにはならないと思う。しかし、出来ていないことに気付いて、それを自分で言える(評価)、教師に伝えるなどができたら良いと思う。 ・体育科授業の映像を見たことで、目標をもって運動に取り組んでいることが見えてよかった。今後も動画を活用して取り組んでほしい。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			・縦割り班遊びを活用して、進んで外遊びを行う児童を増やすとともに、体を動かすことが好きだという児童の割合を上げる。	〇児童アンケートによる、「体育や外遊びで体を動かすことが好き」と答える児童の割合(児童評価)	85%	93	109%	В			たちが、「考えたい」「解決したい」(めあて)と思えるような、学習問題や課題提示、そして場の設定の工夫を行う。めあてを設定することで、児童が主体的に取り組むことができる。その活動を振り返ることで、子どもが「わかった!」「できた!」という達成感を得られる授業にしていく。
		基本的生活習慣の改善をする。 ②主体性・粘り強さ	◎基本的生活習慣の確立 ・生活リズムチェックカードを活用し、早寝早起きに関する児童の実態把握を行う。そして、寝る時刻を守れる児童の割合を上げる。	〇各学年で設定されている 寝る時間をまもることのでき る児童の割合 (児童評価)	75%	77	103%	Α	・児童評価の結果では達成値が77%となった。しかし、実際の生活リズムチェックカードの結果から、夏休み中に寝る時刻が守れた児童は55%、二学期中に寝る時刻が守れた児童は88%と、長期休業中は生活リズムが崩れやすくなる実態がある。メディアの使用時間が長いため寝る時刻が遅くなる、寝る時刻が遅いため朝起きられない、という悪循環となっている。	まり組むからにとっている。 ・家庭の協力が不可欠である。PTA等との連携を図るとともに外部機関の活用を考えてみてはどうか。 ・保護者の責任によることが多いと感じる。具体的な根拠やデータを其に、家庭とともに取り組むが悪がある。	・生活リズムチェックから得られた情報は、整理し保健だよりや学級懇談会で保護者に発信していく。そして、保護者の意識も高めていく。・今年度取り組んでみたノーメディアデイの取り組みにおいて、保護者の反応も良かったので、毎学期1、2回行っていき、メディアに対する意識と子供と向き合う時間の確保をねらっていく。
信頼される学校		学校・家庭・地域のつながり を深める情報交流	◎信頼される学校づくり・学校の取組を分かりやすく伝える情報発信を行い、理解と協力を得る。・地域の人材を活用し、つながりを深める。	〇保護者アンケートによる情報発信(学校だより、学級通信、保健だより、図書だより) (保護者評価)	90%	96	100%	A	・情報発信「学校は、教育活動の様子や情報(学校だより・学級通信・保健だより・図書だよりを分かりやすく伝えている196%と高い評価を得ている。引き続き、連絡アプリを通して、学校の様子や取組を分かりやすくスピーディに伝え、丁寧な保護者対応に努めていきたい。 ・地域の人材活用は、94%であるが、2月末までにどの学年も3回以上実施する予定である。「ふれあい広場」や生活科、総合的な学習の時間	いると評価できる。	・今後も学校の取組を分かりやすく伝える情報発信を行い、丁寧な保護 者対応に努めていく。 ・主に、島全体を教材化する「大崎上島学」に関する地域の人材を活用している。どの学年もねらいを基に、課題を設定し、情報の収集、整理分析、まとめ、振り返りを行い、その後、課題を再設定し、情報の収集、整理分析をしてまとめ、(校業・学習発表会)を行っている。「大崎上島学」を通して、単にふるさとを知るだけでなく、地域の自然、伝統・文化、産業や
			○	(各学年平均3回以上) 〇県費負担教職員の時間外	90%	94	104%			・地域とのふれあいけ大切である	暮らしを学ぶことで、自らを見つめなおし、自分の生き方を考える探求的な学びになっているので、今後も地域の人材を活用することで、地域の素晴らしさに気付かせ、地域を誇りに思う心を育てていきたい。
	働き方改革の 実現に向けた 環境整備をす る。	教職員の働き方改革に対す る意識改革		〇宗貨員担名城員の時间か 在校時間が前年(前回)より 減った月数 (入退校記録)	90%	75%	83%	В	・配録を通して実態の把握は行ってきているが、分析を行い指導や十分な業務の軽減まではできなかった。 ・時間外在校時間(平均)が少なくなってきた職員が76.5%と増えてきた。(前回は59%)しかし、在校時間が多い教職員が固定化している傾向は変わらない。(75%の職員が、時間外在校時間の月数が減っている。1月現在)・効率的な業務遂行のアイディアについて、企画委員会の中で共有を行った。今年度、様々な業務において改善を少しずつ行っていた。次年度に向け日課表を変更し、学級事務や研修等を行う時間が確保できるようアイディアを出し合っていく。	・時間外在校時間の軽減に向けた取組の工夫が見られる。・今の時代に合った業務時間でよいと思うので、その時間内で学力補充をしてほしい。	・来年度は日課表を変更し、学級事務や研修等を行う時間が確保できるようにしていくと同時に、職員一人一人の意識改革も行っていかなければならない。 ・計画的に連続した年休を習得できるよう、長期休業中の日程調整を行っていく。また、定時退校日の周知を行い、確実に行えるように前後の曜日の行事等の日程調整も行っていく。
									<u> </u>		